

令和2年度第3回 仙台市若林区区民協働まちづくり事業評価委員会  
議事録

1 日時

令和3年3月17日(水) 14時00分～16時15分

2 会場

若林区中央市民センター別棟 第3会議室

3 出席(名簿は次第裏面のとおり)

(1) 評価委員

(2) 事業担当課

家庭健康課、区民生活課、まちづくり推進課

(3) 事務局

まちづくり推進課

4 傍聴者 1名

5 議題

令和2年度企画事業の事後評価について

評価は事業ごとの質疑応答及び意見交換をもって行う

6 配付資料

(1) 令和2年度企画事業実績概要報告書 評価委員へは事前に配布済み

(2) その他関連資料、成果物

7 経過概要

(1) 開会

(2) 委員紹介

(3) 令和2年度企画事業実績概要報告

各課で事業ごとの写真等を投影しながら、実績概要報告書に基づきポイントを報告。その後、質疑応答・意見交換 別紙参照

(4) 閉会

## 令和2年度企画事業に関する質疑応答及び意見交換 記録

委 = 評価委員 担 = 事業担当課

## 1 子育て支援推進ネットワーク事業

担当：家庭健康課

委 団体との話し合いの中で、今後目指すべき子育て支援ネットワークのあり方について検討・合意形成を行ったとあるがどういった方向性となったのか。また、区内で初めて子育てする方への支援・情報提供について応援していこうという話はあったか。

担 子育て支援のネットワークのあり方については、地域のネットワークの中で家庭健康課として関わっていくことに変わりはないが、今後は新たなネットワークの構築を検討している。応援団のネットワークは健康な親子に寄ったネットワークであるが、新たなネットワークについては、子育てが困難な方や強い不安を抱えている方などの虐待予防も含めた、区内の様々な機関が関わるネットワークを考えている。

近年の応援団の活動は、育児サロンやイベント開催を行ってきたが、サロンの代表の方と話をした中では、応援団のサロンと他の機関のサロンが近くの所で行われていて重複している状況などがあり、応援団のサロンの意義について疑問の声があった。今後の応援団としての活動については、何を大事にしていきたいのか役員の間でも、まとまっていないところがあるので、話し合いを重ねないと見えてこないところである。応援団の事務局としては、家庭健康課は退くが、応援団とは一つの支援機関として、今後も関わっていくつもりである。

委 本年度での事業終了について、応援団の活動がネットワークづくりよりサロン活動中心になっており、ネットワーク事業という性格が薄まっているために終了すると受け止めた。ネットワーク事業については、先ほどの説明で新たに構築することだったが、イメージ的には区民のネットワークというよりは、虐待や子育ての専門機関などで作るネットワークではないかと感じられた。そうした認識でよいか。

担 その通りである。新たなネットワークの構築については、詳細はまだ決まっておらず、家庭健康課でも考えているところではあるが、まず始めに関係機関との繋がりがまだ薄いと感じているので、まずはしっかりとネットワークを固めていきたいと思っている。その他にも、民間の機関や、区民が自主的に行っている団体にも、とてもいい活動をしているところがたくさんあるので、そういった団体との繋がりも今後考えていきたい。

委 専門機関や団体との連携はとても大事だが、一方で応援団が目指していたものは、専門機関だけではなくて、区民みんなで、子育て世代を応援していこうといったところが理念のひとつにあると思う。現在、子育てに色々苦労されている方達が多い様子を見ると、みんなでも応援していく雰囲気を作っていくニーズはあるのではと感じている。

なくなるのは、事務局と応援団主要メンバーの運営体制的に、活動の継続が難しくなったのが主な理由なのか、それとも、そもそもニーズがない、あるいはニーズはあるが、色々なところに保育所や児童館などができて、他で対応できる体制が整って必要がなくなったことが主な理由なのか、教えていただきたい。

担 区民全体で子育てを支援していくところは、時代が変わっても根幹になっているところで変わらないと考えているが、応援団開始当初から20年経って、子育てを取り巻く環境が、大きく変わってきており、関係機関が増えたことや、子育てに関わる考え方や、子育て中のお母さんの様子も変わってきている。それに順応していくような形で、新たなネットワークの構築が必要であると考えており、形を変えることに至った。

委 様々な悩みに対応でき、子育てをするのが楽しくなる雰囲気を生み出す、区民も巻き込んだ多様なネットワークの構築を期待している。

## 2 若林区健康づくり区民会議

担当：家庭健康課

委 報告書の9.今後の事業の目標・展開等の内容で健康教育のパッケージ化を進めていくとあるが、具体的なイメージがあれば教えていただきたい。

担 検討段階ではあるが、媒体については、コロナ禍では寸劇などが難しいので、手軽に啓発できるように画像に撮ったものを団体に渡すような形を考えている。パッケージ化については、六郷中学校での授業で話した内容を、パッケージ化して、区内の他の小中学校の授業でも同様に啓発ができるように目指している。

委 仙台市シルバーセンターでは公式のYouTubeチャンネルを開設していて、再生回数が2,000回を超えており、結構見ている方がいらっしゃる。高齢の方でもそういったツールから情報を取り入れ始めていることを知ったので、そういった発信方法も検討いただくと、高齢の方が自宅でも体を動かしたりすることに繋がっていくと思う。来年度も頑張っていたきたい。

委 区民協働まちづくり事業の観点から、区民会議の中で区民が企画や実施に積極的に関わったおかげで、健康づくりが進んだなどの実績はどのくらいあるのか。また、仙台市実施計画に掲載予定の六郷地区の健康づくり事業は、区民協働事業の形で進んでいくのか、仙台市主導で進めていくのか教えていただきたい。

担 区民会議の本会議では、色々な組織の方に集まっていただき、意見を事業に反映できるようにしている。来年度からは「健康づくりフェスティバル」及び「健康づくり寸劇」の健康づくり事業の取り組みを、皆さんが集まる本会議の場で直接意見交換ができるように体制の変更を行った。これにより、より多くの区民の方の意見を、事業に

反映できる環境となり、意識の向上と区全体で取り組めるものにした。六郷地区の健康づくり事業は、区民協働を大前提として進めていく。各地域に入っていく、皆さんと一緒に健康づくりに取り組んでいきたい。

委 健康づくりの情報を届ける相手先の話のなかで、経済産業省にて、健康経営に積極的に取り組んでいる企業を「健康経営優良法人」として認証する制度を実施しており、社員の健康を守り、生産性を高める取り組みとして健康経営に取り組んでいる企業が増えている。健康経営とは、社員の食に関する指導や、メンタルヘルス、スポーツの推奨などの健康管理を企業が経営的な視点で考え実践することで、企業も社員の健康を考えているところが増えている。そういった意味では、相手先として企業があってもいいと思うし、企業側で方針をしっかりと位置づけて、社員の健康づくりを区と連携して実践していく仕組みもあるかと思う。

### 3 若林区安全安心街づくり活動推進モデル地区事業

担当：区民生活課

委 ネットワークの中に警察、消防、連合町内会の他にはどのような団体がいるのか。

担 児童福祉協議会、南小泉チャイルド・セーフティ・ネットワークなどがある。

委 不審者などから子ども達を守らないといけないと思うが、その他に、コロナ禍の影響により失業者が急激に増えるだろうと言われており、治安の悪化が懸念され、お金に関する新卒者の詐欺が増えてくるのではないかと予測される。そこでネットワークの中に金融機関を入れていただき、情報共有していき、高齢者を守るような取り組みも考えていただきたい。今まで入っていなかった、地域のインフラを担う銀行などにもお声がけして、一緒に知恵を出してもらってもいいと思う。

担 新型コロナウイルスも早々には収束する心配がないので、令和3年度実施していくにあたっては、新型コロナウイルスの影響があると思うので、事業の手法や、技術的なところを考えていく必要はあると思った。ネットワークの中には金融機関が入っていなかったなので、こちらから出向いて啓発活動をする場所としての金融機関や、あるいは金融機関から情報提供いただくなど、何らかの関係性を持つことについて、今後の進め方の参考にさせていただきたい。

### 4 若林区魅力発信事業（若林わくドキまち歩き）

実施：若林区まちづくり協議会

担当：まちづくり推進課

委 六丁の目をフィールドワークしたとのことで、企画作りには、地元の方も参加しているのか。

- 担 今回ガイドを務めたスタッフの方は地元の方である。
- 委 事業の目的のところ、若林区の歴史的な街並み等の他区とは一味違う魅力を知ってもらおうとあるが、今回の六丁の目コースは歴史に偏っているところが気になった。六丁の目周辺に地下鉄ができたことで、劇的に変わっているところもおもしろさの一つだと思うと、今回のコースで触れた歴史的部分だけじゃない魅力というのは、地元の方が一番感じていると思う。例えばお店が近くて子育てしやすいとか、公園がたくさんあるとか、そういったことも魅力にあると思うと、若林区まちづくり協議会が発信するまち歩き事業だからこそ、おもしろさの部分でもう一工夫が欲しいと思った。このコースだと仙台市の博物館が企画してもおかしくない中身だと思うと、まちづくり推進課が事務局をしている良さというのは、もっと違う方面で発揮できると思うので、これまでの取り組みを踏まえて、まちづくり推進課ならではの面白さを期待したい。
- 委 以前東北放送にて、ラジオウォークということで、ラジオから流れる解説を聴きながら、コースを歩く放送があった。そういったものも事業に活用できたら面白いと思う。
- 委 今後の事業の目標・展開等のところで、外部団体との連携を考えるなど、新たな形の開催をしていきたいとあるが、具体的に教えていただきたい。
- 担 来年度計画している第1回目のまち歩きは、外部のガイドに委託しての開催を考えている。今後、まち歩きを継続していく上で、スタッフの年齢層があがり、ガイド役の担い手の不足を懸念しており、外部にガイド役をお願いする形で続けていきたいと考えている。
- 委 来年度第1回目のガイドは民間のガイドの方なのか。
- 担 今回お願いしたガイドの方は民間の方である。今までは、まち歩きスタッフの中からガイド役を出していた。
- 委 まち歩きで一番面白かったことを参加者に聞くと、ガイド役のユーモアだったり、普段は見ることができない裏ルートを見せてくれたりしたなどが挙がるので、ガイド役のセレクトが非常に大事になる。真面目なところを真面目に話すのでは普通なので、そういったことも考えながら企画することで今までとは違ったまち歩きが出来ると思う。
- 委 先ほど若林区健康づくり区民会議の事業報告があったが、そういう事業と連携させて一緒にやるなどはいかがか。まち歩きを健康づくりと考えて、「外に出て歩こう」、「若林区にはこんな魅力があるよ」、「1週間に1回散歩しませんか」などの問いかけでもいいので、他の課、他の事業との連動も少し考えたほうがいよいと感じた。

5 わかばやし区元気まつり（わかばやし区春らんまん代替事業）

実施：若林区まちづくり協議会

担当：まちづくり推進課

委 今年度はコロナ禍で色々と予測ができない中で、コロナ禍でも工夫をしてやれないか、一生懸命考えている様子が伝わってきて、素晴らしいと思った。残念ながらできなかったことは仕方のないことだが、その取り組む姿勢がよかったと思う。

委 同じスタイルでの開催は難しいと思うが、ショッピングモールの中でイベントを行うなど、時期的に春は難しいと思うが、1年の中でどこかそういったことに取り組むことはできると思うがいかがか。

担 わかばやし区元気まつりのような代替イベントを開催できればよいとは思っているので、実行委員会にご意見をお伝えさせていただきたい

委 目的のところ、商店街の存続と活性化とあるが、おまつりと商店街の活性化が繋がっているのか疑問に思うところがある。どの地域でも商店街のお祭りをやっており、商店街の方々も割と疑問を持たずに、今までの流れの中で行っていると思うが、お祭りに来られた方は、商店街とは関係なくお祭りを楽しんでおり、その後、このお店に行ってみよう、ここで食べてみようなどの行動に繋がっていないと思う。お祭り自体はまちづくりの活動の一環としてはいいが、お祭りを行うことでいかに地域活性化に繋がっていくか、共存共栄の関係性をこの事業にいかに盛り込んでいくかについては、工夫が必要である。まちの賑わいだけを目的としたイベントを商店街に負わせていいものなのか純粋な疑問としてあり、実際に不満の声は他の地域でも聞いてはいるので、商店街の方々と、どうやればこの事業が商店街の活性化に繋がるかを色々と議論して進めて欲しい。またもう少し多様な方々がそこに入って、一緒にやっていくなどそういった仕組みも考えたほうがいいと思った。

担 わかばやし区春らんまんは若林区連合商店会が主催をしており、仙台市で連合商店会があるのは若林区だけである。単位商店会で地域のお祭りをやっているところは多々あるが、連合としての存在価値というか、意義を確認するために、春らんまんをこれまで続けてきたところがある。このイベントがこのまま出来なくなってしまうと、連合商店会の存続の意義がどこにあるのか、連合商店会でも危惧している。

委 コロナ禍の中で、商店をいかに活性化させていくかということで、まちづくり活動助成事業の荒町の取り組みのように、商店を取材して発信するなど、イベント以外にもできることはあると思うが、連合商店会では、そういった各商店会の取り組みの情報交換をする場があるのか。

担 聯合商店会では総会や懇親会などを行っているので、その中での情報交換はあると思う。荒町は今注目されているエリアでもあるので、聯合商店会の皆さんで情報共有をしていただき、自分たちの商店街にどのように取り込んでいくかを検討していただくことで、地域の活性化に繋がり、我々の目指すまちづくりになっていくと思う。

委 まちづくり推進課では、まちづくり活動助成事業を担当しているので、ぜひ荒町のような、参考となる取り組みについては、各商店会にも情報共有していただけるとよい。

## 6 地域メディアの活用による創造プロジェクト

「ラヂオはいらいん若林」制作・放送

実施：若林区まちづくり協議会

担当：まちづくり推進課

委 リスナーの参加性を高める仕組み、例えば若林区にちなんだトピックスを募集したり、リスナーからラヂオはいらいん若林の制作スタッフを募集したり、リスナーにプレゼントをしたり、そういった参加性を高めるようなコーナーはあるか。

担 スタッフの募集については、公募を考えていた時期もあったが、どんな人が入ってくるのか分からない問題があり、誰でもいいというわけにはいかないところと、取材を行って番組を制作している性質上、ある程度まちづくりの知識がある方をセレクトしなければならないので、スタッフの人選は人づてや、一本釣りで勧誘している。リスナーの参加性を高める仕組みについては、リスナーとのやり取りができればいいのだが、スタッフ数名と事務局も限られた人数しかおらず、マンパワー的に現時点では手が回らないのが正直な所である。

委 今すぐには無理でも、はがきやメールで情報を送ってもらい、「若林区にこんな施設が新しくできましたよ」、「ここのお花が来月咲きそうです」などその場所にいる人でないとわからない情報などもあると思うので、そういった関わりがあることで広がりやバリエーションが出てくると思う。

委 インターネットでも聴けることになっており、いかにそこにたどり着くかが大事だと思うが、インターネットで検索すると若林区のHPに出たページが最新のものがなかったのだが、放送されているところにたどり着くルートを確保することが必要かと思うが現状はどうなのか。

担 ラヂオはいらいん若林のHPにインターネットでのラジオ視聴方法と、そこにたどり着く外部リンクを作成したので、ご確認いただきたい。

委 検索エンジンで「ラヂオはいらいん若林」と検索したときに、パッと見てわかりやす

く、すぐにたどり着けるようになっているとよい。少ない人数でやっているとは聞いているので、なかなか手が回らないと思うが、せっかくコンテンツがあるので、できるだけ多くの方に聴いていただきたい。また人手が足りないのであれば、放送内容を半分に減らして、発信するところに力を入れていただいてもいいと思う。

委 長く活動をしていると、新しい人材の確保をどうしていくかが課題に出てくると思う。12月19日放送の「若林区まちづくり協議会の今とこれから」を聴いた中で、協議会の会長が、まちづくり協議会でもメンバーが固定化されており、新しい人に入ってもらえないだろうかとインタビューに答えられていて、どこでも同じ課題を抱えていると感じた。一方でまちづくり協議会に入るにはどうしたらよいかの質問に対して、基本的に組織で入ることを前提としている協議会であるというようなお話をされており、まちづくり協議会のHPにも協議会への入り方も載っていないので、個人で入るのはハードルが高い印象を受けた。ラヂオはいらいんの人材確保についても、最近では、発信に興味がある若者も多く、仙台市にはまちづくりの勉強をしている大学生もたくさんいる状況で、協調性が必要なため、一般公募でそのまま受け入れるのは難しいとのことで、なかなかハードルが高いと思った。作り手・発信する側の人材確保の方法・課題について、ラヂオはいらいんに限らず、協議会として考えている具体的なものがあれば教えていただきたい。

担 具体的な勧誘方法や、新しい人材確保の手法などについて、これといったものは特にないが、人づてやイベント開催時に協議会に入ってもらえる雰囲気づくりはしている。一方で人材確保については、事務局よりも、まちづくり協議会のメンバーのほうが長く活動しているので、それぞれの想い・ビジョンを強く持っており、意思の統一が難しいところはある。ただ、やはり人材確保については、これから必ず必要になってくるし、担い手不足の課題に直面している状況を感じているので、少しでも若い方が参加していただけるよう考えていきたい。

委 ラヂオはいらいん若林を聴いて思ったのは、オンタイムでラヂオを聴く方が少なくなっている中で、過去の放送を記録してインターネットで聴けるようにする発想は、どうしても若い世代の方じゃないと思いつかないアイデアだと思うので、その意味では、若い方との世代交流を通して気づける部分もたくさんあると思う。まちづくり協議会でも世代交代とまではいなくても、世代間交流を上手く促していけるようになるといいと思った。

## 7 若林区合唱のつどい2020

実施：若林区まちづくり協議会・合唱連盟わかばやし

担当：まちづくり推進課

委 合唱のつどいのできた経緯を教えていただきたい。音楽の力でまちづくりをするのに力を入れている地域が色々あるが、それが結実して若林区合唱のつどいのできた

のであれば、合唱だけではなく、もう少し多様な音楽を取り入れることもあっていいと思う。集まって合唱やるだけではなくて、先ほど説明のあった子育て支援の活動と絡めていくとか、色々な音楽の関わりを増やしていくやり方もある。若林区にも多くの音楽家の方がいらっしゃると思うので、そういった方々を巻き込みながら、市民協働で多様な音楽が楽しめるまちづくりといった切り口も新しい形としてある。

担 過去の資料をみると、合唱を通して地域の方々と交流を図ることを目的に発足したものだと思う。この合唱のつどいもまちづくりという観点から、新しいものを取り入れることも必要と思うが、スタッフの想いなどもあるかと思うので、時間をかけて検討していければと思う、

委 来年度の合唱のつどいに向けて、事前に準備する期間は十分にあると思うので、多方面からの意見を取り入れ、ぜひ実現できるように検討をしていただきたい。各団体は発表の場所を失い、途方に暮れていると思うので、オンラインや事前撮影など工夫をしていただき、準備を進めてほしい。

担 このイベントに限らず、with コロナでどうやったら事業をできるかを、今年度の課題として取り組んできた。合唱については、飛沫感染のリスクが高いので、対策として、いつも発表している団体のみでの発表会としたらどうかとの意見も出ているが、そうなってしまうと、果たして区民協働といえるのかななどの課題もあるので、一つ一つ整理しながら、新たな形で開催したいとは考えている。ご意見いただいたように、若い世代の方の協力を得ながら、オンラインの発表なども視野に入れて検討を進めていきたい。

## 8 地域資源活用事業（六・七郷堀サポーターズ）

担当：まちづくり推進課

委 堀を生かしたまちづくりとは具体的にどういうことを目指していたのか。

担 若林区の特徴として堀があり、水辺空間を利用した、地域の活性化を目指していた。それに加えて、当時は大学生の方が多く参加されていて、この事業を活かした人材育成を行い、将来的にはまちづくりの担い手に繋がっていくような構想があった。しかし現状は、スタッフの高齢化に併せて、それぞれの趣味や興味があるところの限られた範囲での活動にとどまっている状況で、まちづくりに繋げていく事業展開ができなくなってきたので終了とさせていただいた。

委 昨年度の報告のときに、河川課や農林土木課との協力体制が確立されたとあったので、これから「堀をいかしたまちづくり」が進んでいくものだと思っていた。事業が終了するのは残念。六・七郷堀は、若林区民の暮らしと密接なものがあったが、現状は暮らしとかけ離れたものになっている。改めてまちの魅力としての六・七郷堀を再発見

することで、まちづくりとしての広がりの可能性はひろがると思っているので、今の六・七郷堀サポーターズの体制では難しいとしても、本来であればこうすればよかった、また始めるとしたらこんな形で再スタートしたいなどの議論はしっかりとした上で終了していただきたいと思う。こんな形で展開すべきだったというイメージなどはあるか。

担 若林区と市民団体である六・七郷堀サポーターズの協働事業ということで、区からみる目指した形としては、初期の段階で区が関わって、協働で事業を進めていき、協働相手先である六・七郷堀サポーターズが自立して、自分達でまちづくりに展開して、どんどん回りを巻き込んで広げていけるような形が理想だったのかなと思う。現状では若林区が主導となっており、そのままの状態だと、まちづくりに繋がる部分としては、アンバランスだと思っていた。

委 サポーターズのスタッフの考えでは、ハード寄りのまちづくりを考えていたのか。

担 現スタッフの考えではハード寄りである。仙台市がもっと水辺の空間を体現して、みんなが水辺に親しめるよう整備を進めたいという考え方があった。まちづくり推進課ではハード整備はできないので、そこで平行線を辿ってしまったところもあった。

委 サポーターズの方達は堀に関するスペシャリストでもあると思うので、若林わくドキまち歩きのガイド役としてご活躍いただくのもいいと思う。

担 まち歩きのガイド役となっただくことは考えていた。また、若林区民ふるさとまつりなどで継続的に取り組んでいただければ、活躍の場を一緒に共有できると思っている。

委 堀清掃などの環境整備を六・七郷堀サポーターズでしていたことは、すごく大事なことであって活動を見守っていた。六・七郷堀が行政の財産ではなくて、市民の財産である認識を作っていないと、堀への親しみも薄れて、ゴミだらけになっても誰も掃除しなくなってしまうのではと危惧している。区役所周辺の地域の方に話を聞いたことがあるが、六・七郷堀は農業用水路なので、下流の方達が江戸時代から掃除をしていたと伺って、下流の方達が掃除する認識があるものと感じた。そういった意味では、誰が堀を管理していくのかを、六・七郷堀サポーターズが、市民活動の一環で、堀清掃を行うことで、堀は市民の財産である認識を広めていく啓発活動を展開していて、素晴らしい活動だと思っていた。一旦活動を終了するとのことだが、もっと市民が関わりながら、自分達で堀清掃などを行ってもいいのではないかと個人的には思っているので、そういうきっかけをサポーターズが作っていたと思うので、今後の展開として、堀清掃などを引き続きリーダーシップをとって行ってほしいとこれまでの活動を見て思った。堀管理のところも別事業でお考えいただきたい。

担 スライドにある堀清掃はサポーターズ数名と事務局だけで行った。可能な限り堀清掃も地域の方を巻き込んで一緒に出来ればよかったのだが、達成できなかったところがある。堀は市民の資源・財産という意識に持っていきなかつたのは大きな反省だとは思っている。

## 9 若林区民ふるさとまつり

実施：若林区まちづくり協議会（若林区民ふるさとまつり実行委員会）

担当：まちづくり推進課

担 まつりが中止になったことから、今年1年かけて、どうやったらまつりが開催できるか、実行委員会みんなで考えてきた。

委 去年の企画事業が14事業で今年が9事業ということで、また今年度の報告を聞くと、事業を終了するものが複数あり、来年度以降、区民協働まちづくり事業がこのまま縮小していくのではないかと心配しているところはある。コロナ禍で事業が減っているのか、それとも予算枠の関係で事業が減ってきているのか、仙台市での位置付けが変わってきているのか教えていただきたい。

担 予算枠の話をするとは変わってはいない。ただコロナ禍ということで、どうしても、スクラップアンドビルドは必要で、各課見直しを行った結果が今回の企画事業となっているものと思う。

委 この区民協働まちづくり事業の枠組みでの事業が減るのはよいとしても、区民協働に関してはもっと進めていかななくてはならないと思っているので、どうやったら区民協働がより活性化していくかについては考えていかなければならないと思う。評価委員会の仕組みがそれに資するものになっているのか、委員会のあり方についても、区民協働の形に合わせて変えていく必要もあるかと思った。

担 まちづくり活動助成事業については、みなさんからご意見をいただくことで、それを反映する形でよりよい事業になっていると思う。企画事業の評価のあり方については、各区様々な意見があるので、それをまとめて、いかに事業に反映してよりよいものにしていくかについては、仙台市として大きな課題になっているので、数年かけて検討しているところではあるので、近い将来になるかと思うが、新たな形でのご報告ができるものと思う。

委 今年度は、中止になった事業や取りやめた事業などがあつたと思うが、中止になってみると、継続してやっっていこうとする気持ちが段々と弱くなっていくところがある。今まで当たり前のように色々工夫をして行ってきたことが、一旦ストップしてしまうと、体力や気持ちが衰えてきてしまって、それをまた復活させようとする気持ちも弱くなっていくことが懸念される。新型コロナウイルスに注意しながら事業を進めてい

く、一方で事業が縮退していかないように、区役所を上げて頑張っていたらと思う。